

部会長： 森 照明

構成員： 荻野雅宏、川又達朗、佐藤智彦、杉本信吾、谷 諭、中山晴雄、福田 修

## 平成20年度研究活動状況

### I. スポーツ頭部外傷発生状況とセカンドインパクト症候群の実態調査

日本神経外傷学会スポーツ頭部外傷委員会と共同でスポーツ頭部外傷発生状況とセカンドインパクト症候群の実態調査を約1500施設に実施中である。

セカンドインパクト症候群とは「最初の頭部への衝撃で脳振盪を起し、その後短期間に2度目の衝撃が加わることによって取り返しのつかない重篤な症状を引き起こす症候群」であり、重症化しやすく死亡例も報告されているが、実態がまだ十分把握されておらず、調査中です。

重症スポーツ頭部外傷のデータベース化は引き続き検討中である。

### II. スポーツ脳振盪の動向

2008年11月に Zurich で

Consensus Statement on Concussion in Sport – the 3rd International Conference on Concussion in Sport が開催された。

その会議の内容は「脳振盪の定義には大きな変更はなく、分類は前回までは、単純型と複雑型とされていたが、これを撤廃することとした。

重症度評価は前回から提案された SCAT card が改変された。

このなかで注目すべきは、現場での評価にも平衡感覚テストが取り入れられたことである。さらに現場に即した、より短時間で施行できる pocket SCAT card が作られた。脳振盪を起こした選手の現場への復帰に関しては、従来と同様の段階的復帰が推奨された。

これら、脳振盪の評価、管理、復帰に関して、特に小児においてはより慎重な対応が 望まれることが強調されている」（谷諭記）。

### 要 旨

#### スポーツにおける脳振盪 —脳振盪の評価と現場への復帰—

谷 諭 川又 達朗 荻野 雅宏  
森 照明 福田 修 阿部 俊昭

スポーツにおける脳振盪の問題点としては、受傷時に併発しうる致死合併症である急性硬膜下血腫、その後の急性期に再び打撃を被ることによって致死脳損傷を生じうるセカンドインパクト症候群、そして、繰り返しの外傷により認知機能の低下をきたす慢性脳損傷などが挙げられている。これらの観点からは、脳振盪を起こしたスポーツ選手の管理および現場への復帰は重要な課題である。脳振盪では意識内容の変化を起こしているが、重症度の判定に際しては、意識消失や記憶力障害の有無や期間よりも、脳振盪に関連した諸症状、徴候の持続時間が重要であるとされている。脳振盪の客観的評価としては、ペーパーベースの SCAT カードや computer based testing が行われている。また、重症な脳振盪の際には、神経心理学的評価も評価に加味される。復帰に際する原則は、症状の消失があるまで休息をとることである（身体機能、認知機能上の休息）。そして、それから段階的復帰が強く望まれている。しかし、現実には、脳振盪からの復帰を規定している団体はわずかであり、統一性もなく、個々のレベルで対応したり、指導がなされていないのが現状である。本邦においても、関連諸団体による脳振盪からの復帰のガイドラインの作成が望まれる。

脳外誌 18 : 674-678, 2009

### Ⅲ. 委員の学会活動など

1. 荻野雅宏, 金彪 : スポーツによる頭部外傷. *Neurological Surgery* 36: 949-959, 2008
2. 荻野雅宏 : 第 3 回国際スポーツ脳振盪会議. *Neurological Surgery* 37: 810, 2009
3. 杉本信吾, 鷺見靖彦 : スノーボードによる頭部外傷、頭部の打撲回数と重症度について。第 32 回 日本神経外傷学会。下関、2009. 4. 17-18
4. 杉本信吾, 鷺見靖彦 : スノーボードによる頭部外傷 頭部の打撲回数と重症度に関連はあるのか？  
第 68 回日本脳神経外科学会総会。東京、2009. 10. 14-16
5. 谷 諭、川又達朗、荻野雅宏、成相直、福田修、森照明 : スポーツにおける頭部外傷（頻度、分類、特殊性など）*臨床スポーツ医学* 25:309-312, 2008
6. 谷 諭 : 各スポーツでの頭部外傷の現状と対策。サッカー。*臨床スポーツ医学* 25 : 369-373, 2008
7. 谷 諭 : 頭部外傷・脳振盪。*臨床スポーツ医学* 25:38-42, 2008
8. 中山晴雄 : 国内のトップレベル大学アメリカンフットボールチームにおける脳震盪の実際。第 32 回日本神経外傷学会総会 下関、2009.
9. 中山晴雄 : 競技レベルの異なるアメリカンフットボールチームにおける脳震盪の相違 第 68 回日本脳神経外科学会学術総会 東京、2009

10. 福田 修：スノーボード頭部外傷の初心者と中・上級者における臨床像の相違  
—過去9シーズン2366例の検討— スノーボード、スキー頭部外傷による死亡例  
の検討。第32回日本神経外傷学会 下関、2009. 牧野賞受賞
11. 宮本淳一、森照明、峯浦一喜：卓球運動における脳賦活部位。  
日本臨床スポーツ医学会誌17：24-29. 2009